

5 袋井市社会教育委員からの つのメッセージ

～子どもの社会性を地域で育むために～



子どもの頑張りを 素直に認め、**声に出して** 褒めてあげよう

褒めて認めてもらうことで、子どもは自分が価値のある存在だと気づき、それを自認することで初めて、他者も大切な存在であると思うことができるようになります。

「**ありがとう**」を 言葉にして伝えよう

子どもの成長には「自己有用感（自己肯定感、自尊感情）」が重要です。「ありがとう」という感謝の言葉は子どもの自己有用感を高めるとともに、「ありがとう」と言われたときのうれしい気持ちは子どもの心の大きな支えとなります。

「**おはよう**」の 挨拶から始めよう

子どもは親の姿をよく見ています。挨拶ができ、夫婦や親子の仲も良い家庭では、子どもの心にもゆとりが生まれます。「おはよう」は1日の始めの挨拶です。「おはよう」の挨拶から、毎日の言葉のキャッチボールを始めましょう。

子どもの声に しっかりと耳を 傾けよう

子どもは生まれたときから親とは別の人生を歩み、自分自身の思いや価値観を身につけて育っていきます。親の基準で子どもの存在（思いや価値観）を決めつけず、まずは受け入れることが大切です。

つながりあい、 参画しあう場を通して 「**市民**」を育てよう

地域のつながりは、身近な人を今より少しだけ気にかけることから始まります。地域の大人が協力して子どもを見守り育て、地域の行事に主体的に参加させ、その意見を受け止めることで、子どもも地域の一員であることを自覚していきます。

